



海外生活 だより

シンガポール事務所

マレーシアとシンガポールの 「プラナカン文化」 ～その華やかなりし頃に思いを馳せて～

(一財)自治体国際化協会シンガポール事務所 所長補佐
松田 美和 (東京都派遣)

プラナカン

皆さんは、「プラナカン」という言葉をご存じですか? 「プラナカン」とは、15世紀以降、マレーシアやシンガポールに世界各地から移住して来た男性が、現地に住んでいたマレー女性と結婚し、生まれた混血の子孫のことで、彼らは中国やマレーに西洋の文化をミックスさせた独自の生活スタイルを築きました。中国本土から渡ってきた中国人男性と、地元のマレー系女性が結婚して生まれた子孫のうち男性がババ、女性がニョニヤと呼ばれ、貿易商として成功し財をなしたババ・ニョニヤの繁栄は、豪華絢爛な建物、調度品や日用品に色濃く残っています。

特に、古くから港湾都市として栄え中華系移民が多いマレー半島のマラッカ、ペナン、シンガポールの3都市でプラナカン文化は栄華を極めました。これらの都市に共通して言えることは、プラナカンの伝統建築であり、1階が店舗、2階が住居で、間口が狭く奥行きが深くて数軒が連なった作りのショップハウスが保存され、現代の街並みに融合していることです。また、中華とマレー料理の融合したニョニヤ料理の店や、パステルカラーに彩られたプラナカン食器、精緻なプラナカン・ビーズ刺繍の施された靴、プラナカン女性の伝統衣裳であるクバヤなどが購入できるプラナカン雑貨のお店があることです。シンガポールや隣国マレーシアではこうした文化に触れる機会が多いため、今回はこのプラナカン文化について都市別にご紹介します。

ペナン

マレーシアの西海岸北部にあるペナン島とその対岸からなるペナンは、イギリスがマレーシアに最初に入植した歴史ある都市で、その中心地であるジョージタウンはマラッカとともに2008年にユネスコの世界遺産に登録されています。東西貿易の中継地である自由港として発展してきたペナンで、プラナカン文化の象徴的な建造物は、19世紀末のペナンで

「東洋のロックフェラー」と言われた大富豪の邸宅「チョンファッツイ・マンション」です。



チョンファッツイ・マンション
(マレーシア・ペナン州)

この邸宅は外壁の鮮やかなインディゴブルーと風水を取り入れた建築が特徴で、カトリーヌ・ドヌーヴ主演の映画「インドシナ」の舞台にもなりました。また、同時期に有力者によって建てられたペナン・プラナカン・マンションと併設のジュエリーミュージアムはアンティークのコレクションが充実しており必見です。ペナン随一の繁華街ガーニードライブには、マレーシアでクバヤ職人として人間国宝の称号を与えられたキムさんのお店「キム・ファッション」があり、店内を飾る鮮やかな刺繍が施されたクバヤは人々の目を楽ませてください。キムさんがデザインするクバヤはマレーシア・インドネシア・シンガポールの王族やVIPなども愛用しています。

マラッカ

マレー半島南西部のマラッカ海峡に面し、古くから海洋交通の要衝であり、ポルトガル、オランダ、イギリスと西洋諸国の影響が数多く残る町・マラッカにはババ・ニョニャ・ヘリテージ博物館があります。プラナカンの大富豪の邸宅が当時のまま公開されている博物館で、家宝や豪華な調度品から当時の生活をうかがい知ることができます。この博物館へ共に訪れたシンガポール人の友人は祖父母がマラッカ出身で、友人の祖父の家は以前はこの博物館の3軒先にありました。小さな頃の記憶にある家の造り、色鮮やかなタイルの床、黒檀の家具までもこの博物館とほぼ同じで、2階の床にある外の様子をうかがうための覗き穴も同様にあり、幼い頃はその穴を覗き大人たちが帰るのを見張りながら遊んでいたそうです。少し前の世代までは実際にこのような住宅で同じ調度品に囲まれながら生活していたのだと知り、大変興味深く感じました。

マラッカでは夜市で賑わうジョンカー通りやそれと平行に走るヒーレン通りに、プラナカンの邸宅や雑貨のお店が多く、鮮やかなビーズ刺繍の靴などショッピングを楽しむことができます。



ニョニャ靴 (マラッカ)

シンガポール

大都会シンガポールではプラナカン文化は現代風にアレンジされています。ニョニャ料理はお洒落で洗練されたインテリアのショップハウスで提供され、プラナカン博物館はかつて学校だった白亜の壮麗な建物に入っています。

そのシンガポールの中でも、プラナカン文化が色濃く残る街がカトン地区です。カトンにはパステルカラーで色とりどりの鮮やか



クバヤ (プラナカン博物館)

なショップハウス、プラナカン雑貨のお店、ニョニャ料理やプラナカンの代表的な麺料理であるラクサの名店が多くあります。



鮮やかなパステルカラーのショップハウス

この地域でプラナカン雑貨のショップを手掛け、プラナカン工芸品のアーティストでもあるビビさんは、一般の人にビーズ刺繍を教えています。ニョニャ靴に代表されるプラナカン・ビーズ刺繍は色鮮やかですが、ビーズが極小で縫い目が細かいため、完成までには技術と根気を要します。ビーズ刺繍は、古くからプラナカン女性であるニョニャの手仕事により行われてきました。自身もプラナカンであり多彩な仕事を手掛けるビビさんが惜しみなく伝統技術を一般の人に教える目的は、プラナカン文化を普及させ、伝統を次世代に残していくことにあります。シンガポール人、インド人、日本人などさまざまな国の人が彼女の元に集まり、ビーズ刺繍の奥深さを学んでいます。

シンガポールでは、地域のコミュニティセンターでニョニャ料理を学ぶこともできます。ニョニャ料理は実際作ってみると、あの複雑で濃厚な味わいはたくさんのスパイスにより作り出されたものなのだとわかります。



コミュニティセンターのニョニャ料理教室

コミュニティセンターのニョニャ料理教室には、伝統の味を学ぼうと、地元の人に混じって、日本やインドネシアなどから外国人の若者も参加しています。

近年は婚姻スタイルが多様化し、純粹にプラナカンと呼べる人たちは減っていますが、貴重な伝統文化を残そうという取り組みが各地で行われています。皆さんも、これらの都市を訪れる機会がありましたら、是非、プラナカン文化に触れてみることをお勧めします。